

野球⇄やり投げ

生粋のピッチャーが切り拓いた新たなフィールド

あら い り な
新井 里奈さん

問合せ 秘書広報課広報・シティプロモーション係内 336

Contents

P 1 ~ 6

羽村×人 新井里奈さん／指定管理者を募集します／チャイム放送時刻の変更／下水道使用料を改定します／生活保護受給世帯などに市指定のごみ収集袋を交付／ごみ収集車から煙が上がる事故が発生しました／小型充電式電池等は「有害ごみ」で収集しています！

P 7 ~ 8

がん検診を受けましょう／インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の予防接種／健康管理術

P 9 ~ 16

お知らせ／情報アラカルト／今月の子育て研修動画

P 17 ~ 18

10月の相談日／休日診療など

表紙紙

魅力発信市民記者レポート／ヒノトントンZOO News

表紙の写真 市民公募作品



= 実り =

早朝の田んぼは、
朝露も蜘蛛の巣も輝いていました。

撮影 内野 恵美子さん
撮影日 2025/9/7
撮影場所 根がらみ前水田

【発行】羽村市 【編集】羽村市秘書広報課
〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘 5-2-1
☎ 042-555-1111 ☎ 336 FAX 042-554-2921
URL = <https://www.city.hamura.tokyo.jp/>
✉ s102000@city.hamura.tokyo.jp

8月21日、市内在住で南多摩中等教育学校6年（高校3年相当）の新井里奈さんが、令和8年度全国高等学校総合体育大会（近畿総体2026）の女子やり投げで45・32mを記録し、第4位に入賞した報告のため、市長を訪問しました。新井さんに、やり投げとあわせて、小さなことから続けている野球についても伺いました。

やり投げとの出会いは突然の「スカウト」

2年生（中学校2年相当）の時に、高等部の陸上部顧問の先生から「やり投げやってみたい？」と声をかけられたのが始めたきっかけです。入学時から野球部に入っていて、キャッチボールや遠投をしているところを見て、向いていると思われたようです。でも野球が好きだったのであまり乗り気ではなく、やり投げをする気はなかったです。ただ、その顧問の先生がとても積極的で、先に野球部の先生と話を付けてしまっていて「兼部でいいから」と半ば強引に練習が始まりました。

最初に出た大会は、中学の野球部引退後のジャベリックスロー（※）の都大会で、結果は7位でした。「思ったより高い順位に入れた」と思って、悔しきとかはそこまでありませんでした。高校からは正式に野球部と陸上部の兼部になりました。

※ジャベリックスロー…羽根付きのやり状の棒を投げて飛距離を競う陸上競技。やり投げの導入競技として開発された。

あら い り な
新井 里奈さん（18歳）

市内在住、栄小学校出身。野球のポジションは投手。右投げ右打ち、好きなチームは埼玉西武ライオンズ、好きな選手は甲斐野 央 投手。野球を始めたきっかけは小学校1年生の時に3つ上のお兄ちゃんの練習を見て自分もやりたい!と思ったから。

野球とやり投げから生まれた相乗効果

兼部後は月・水曜日が陸上部、火・金・土・日曜日が野球部、というスケジュールで練習していました。どちらかの大会前になるとそちらの比重を大きくして、という風にしていましたが、野球の最後の大会前はやり投げも並行して大会があったものの野球部の練習を多めにしていました。兼部自体はそこまで大変ではなくて、野球で疲れたらやり投げをすると気分転換になるし、その逆もあって、うまく取り組めていたと思います。

2つの競技とも投げることは共通しているのですが、ピッチャーの経験がやり投げに生きたり、やり投げを始めたことで球速が速くなった、球質が重くなった、と周りから言われています。やりは全身を使ってまっすぐ力を伝えないと飛ばないので、そういった体の使い方は野球にも生きています。野球は仲間や相手がいて、誰かがミスしたときにカバーしたり、ピッチャーとバッターの駆け引きがある、やり投げは個人競技なので自分の実力、パフォーマンスがダイレクトに結果に繋がります。正反對だけど、どちらも面白いです。

1人を楽しむ

やり投げの大会に出るときはあまり緊張しませんが、インターハイの時は、前日は緊張しましたが、当日会場に行ったら、ナイターでの開催、たくさんのお客さんからの声援、という普段とは違う環境だったので楽しめました。

関東大会までは昨年とあまり変わらない記録でしたが、ある程度はいい手ごたえがありました。その後インターハイ前に記録が伸びて、インターハイ決勝では自己ベスト記録を出せました。

このあと10月には国スポ（第80回国民スポーツ大会）に東京都代表で出られることが決まっているので、そこでは都の高校記録（47・97m）の更新を狙っていきます。

この先に描く、挑む未来

やり投げは高校で一区切りのつもりで、今後は野球の道を進んでいきたいです。女子野球チームに所属したいと思って、今は勉強と両立しながら自主練に取り組んでいます。球速はもっと上げた

いし、ピッチャーで行けるところまで上に行きたい。目標は日本で注目されるようなピッチャーになることです。

ハキハキと背筋を伸ばしてインタービューに答えてくれた新井さん。活躍の礎となっているのは何事にも真摯に取り組む姿勢なのだと感じました。来る10月16日（金）には、新井さんの出場する国スポの少年女子やり投げが開催されます。みんなで応援しましょう！

お母さんにもお話を伺いました！

Q. 里奈さんは普段どんなお子さんですか？

やり投げと野球のほかに塾にも通い、ピアノも習っています。それらに取り組むときは非常に集中する反面、終わるととてもリラックスします。何もない休みの日は夕方まで起きてこないことも。

また野球観戦が好きなので、よく見に行っていることも気分転換になって、オンオフが切り替えられているのかなと思っています。

Q. やり投げを始めたときはどう思いましたか？

陸上部の先生から声を掛けられる少し前に、ピッチングの練習でやり投げを取り入れている事例をたまたま聞いていました。なので本人は乗り気じゃないと言っていたのですが、野球にいい影響が出るかも!と期待していました。